

## 4. フィールドワーク

### 4.5 フィールドワーク結果 「新興住宅地」

# 新興住宅地

注) 2009年の住宅地図を2024年のものと比較して、田畑から住宅地になった場所を「新興住宅地」としました。調査は大学生を交えて実施されており、大学生が気になった場所等を撮影し、感じたことをコメントしています。

凡例

- 調査地 (新興住宅地)
- 調査地周辺
- 新興住宅地 (このフィールドワークでは未調査)
- 主要施設 (このフィールドワークでは未調査)



### 西2丁目周辺

この地域は、新興住宅と古い住宅が混在していた。田畑の数は減少し、住宅が増えている。

### 北1丁目

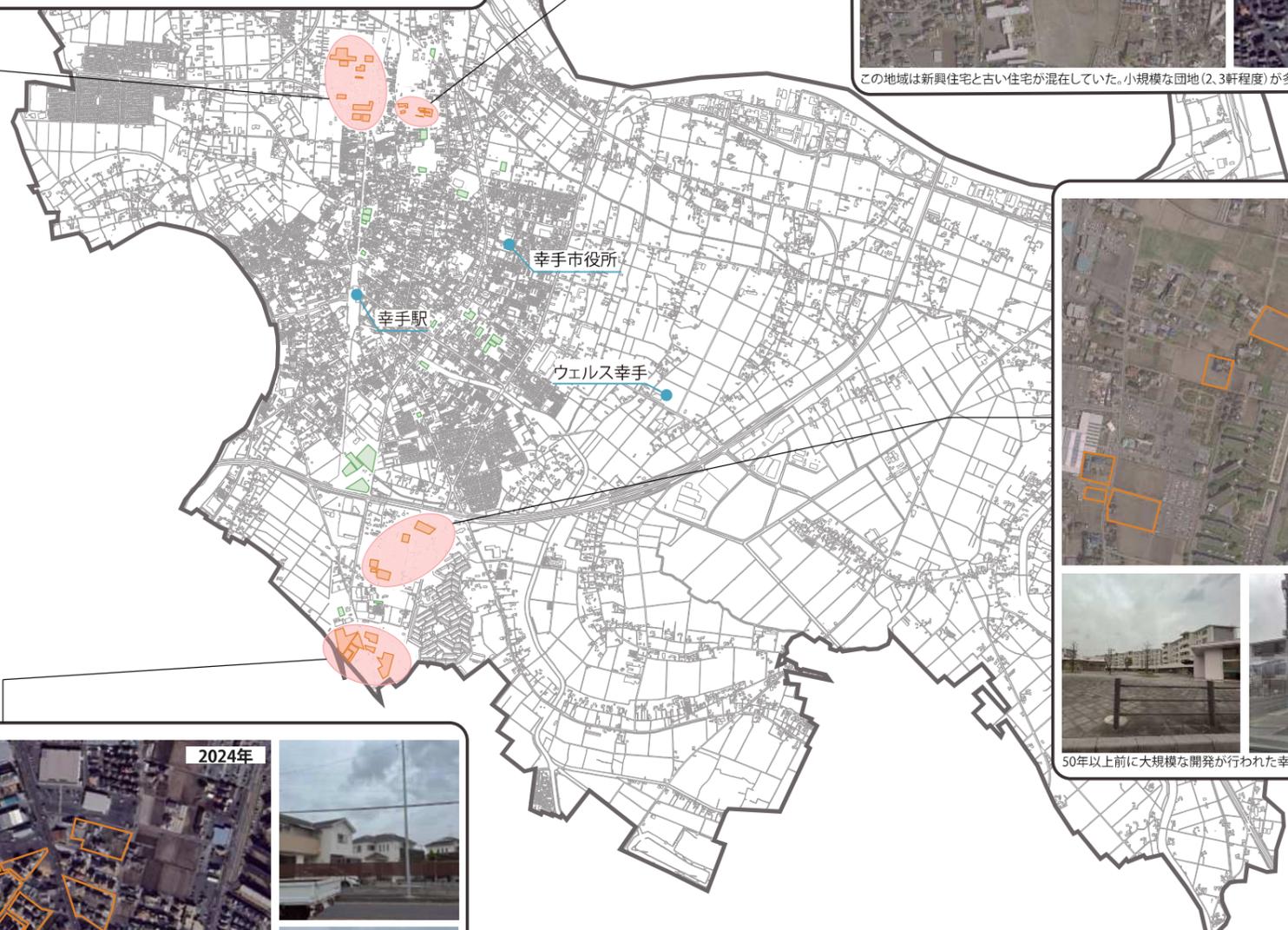
この地域は新興住宅と古い住宅が混在していた。小規模な団地(2,3軒程度)が多かった。

### 幸手団地北側

50年以上前に大規模な開発が行われた幸手団地と比べて、現代は細かい規模で虫食い状に開発されている場所が多い。

### 上高野

この地域は古い住宅が少なく、ほとんどが新興住宅だった。これは広い田畑がまとめて開発されたためだと考えられる。



### 調査に参加した大学生による考察

新興住宅地の場所を調べ、その土地の変遷を見ることで宅地需要がどのような場所に多いのかについて把握することを目的として調査した。  
 ほとんどが田んぼから新興住宅地になっているものだが、元々建物があった場所から住宅や集合住宅になっている場所も見られた。区画が整備され、古い住宅群が新興住宅地になっている箇所が何件も見られ、古くなった住宅群が一斉に取り壊され、同じような時期に同じ場所に同じような住宅が建てられるというサイクルが出来上がっているのではないかと考えられる。

## 4. フィールドワーク

### 4.6 フィールドワーク結果 「大規模空地」

# 大規模空地

注) 2009年の住宅地図を2024年のものと比較して、大きくまとまった空地を「大規模空地」としました。調査は大学生を交えて実施されており、大学生が気になった場所等を撮影し、感じたことをコメントしています。

凡例

- 調査地 (広域の公共的な施設)
- 主要施設 (このフィールドワークでは未調査)



内国府間 市街化調整区域

2009年

2024年

以前から農地として利用されてきた土地であり、現在も一区画全てが農地として利用されている。周囲の農地の中には宅地に変換している敷地がみられたが、多くは農地のままである。

内国府間 市街化調整区域

2009年

2024年

田圃地域で、ほぼ一面が水田として利用されてきたものの一部が、駐車場や社宅として整備された地域。幸手桜まつりの時には、露天商の専用駐車場として利用されていた。

中 商業地域

2009年

2024年

以前は病院跡地で、不整形な三角州の形状をしている。周囲は多くの住宅が立ち並んでいるが、新築と思われる住宅は少数であり、田畑から宅地として開発された地域であると考えられる。

幸手駅西口 第一種中高層住居専用地域

2009年

2024年

西口が開発される前は田畑や住宅だったが、開発後は住宅が徐々に増加してきた。現在も多くの敷地が空地のままである。



南 第一種住居地域

2009年

2024年

線路沿いの大規模空地。以前は大規模な工場敷地として利用されていた。周辺敷地は、宅地や工場として利用されるようになった。

上高野 準工業地域

2009年

2024年

以前はパチンコ屋として利用されていた敷地。建物自体は取り壊されており、大きい駐車場も残っている。国道4号に接道しており、周辺には商業地が形成されている。

調査に参加した大学生による考察

過去の住宅地図と2024年の地図を比較し、大型店舗の閉店や工場の解体等により未利用地となっている大規模空地6ヶ所の実態を調査した。

市街化調整区域の「内国府間」は水田と住宅団地が混在し、水路や農道が交差する中に整備された駐車場や農園が点在している。

市街化区域の大規模空地には、「幸手駅西口」「中」「南」「上高野」がある。「幸手駅西口」は商業地や宅地として開発予定だが、未利用地が多い。「中」は旧日光街道と線路に挟まれた住宅地であり、交通量が多いうえ、複雑な道路網が課題である。「南」は主要道路に接続し、以前は大規模な工場だったが、現在は野草で覆われている。「上高野」は旧日光街道と国道4号の交差点に位置し、建物が放置され広い駐車場が残っている。

これらの調査から、市街化区域の空地は再開発の余地がある敷地が不整形であり、市街化調整区域の空地は整形で広いが、道路整備が不十分で用途変更などの都市計画上の課題がある。

## 4. フィールドワーク

### 4.7 フィールドワーク結果 「イベント」

# イベント

注) 調査は大学生を交えて実施されており、大学生が気になった場所等を撮影し、感じたことをコメントしています。

凡例

- : 調査地 (主要な施設)
- : 権現堂堤
- : さくらマラソンコース
- : 日光街道 (権現堂~幸手駅前)
- : 主要施設 (このフィールドワークでは未調査)



## 幸手桜まつり/権現堂堤



桜の木が両側に配置された土手。  
ピンクの桜と黄色の菜の花が春を感じさせる組み合わせ。  
菜の花畑の中には分かれ道もあった。  
屋台もたくさん出ていて、観光客で賑わっていた。  
権現堂堤の全体の写真。菜の花と桜並木と青い空がきれい!!  
菜の花畑に人が浮かんでいるようだった。  
屋台と桜の木と提燈がお祭りのムードを高めている。  
菜の花の中に水路から水を汲み上げる装置?  
バザーや小ステージも開催され、多くの人で賑わっている。  
屋台前のベンチには多くの住民や観光客で賑わっていた。  
道沿いでは家族や友人とシートを広げてお花見していた。  
屋台から離れたところにも仮設の椅子が置いてあった。

## 幸手桜まつり準備中 (3/14) / 権現堂堤



菜の花はまだ咲いていない。早咲きの桜が咲いており、桜のトンネルが出来ていた。2週間前でも屋台の準備が着々と進んでいる。

## 桜まつり/農産物直売所



農産物直売所では太鼓のパフォーマンスが行われていた。農産物直売所にも多くの出店がたちならび、賑わっていた。直売場裏の空地が、露天商専用駐車場として使われていた。

## 第31回 幸手市さくらマラソン大会



スタート前のコース周辺には、アップしている人がいた。スタート直前。スタートラインに多くの参加者が並んでいる。スタート直後。大勢が一斉に走り出す様子は壮観。  
老若男女、様々な服装の人々が一生懸命走っていた。1位がゴールした時の様子。あつという間だった。小学生の女の子がお父さんと手を繋いで走っていた。  
スタート前の公園広場の様子。コスプレをした人を発見! 職員の方々があわただしく動いていた。市長挨拶の様子。市長さんもランナーとして参加していた!!  
スタート前の公園広場には多くの参加者が準備していた。会場周辺の道路の様子。応援する人たちが沢山立っている。スタート前のコース周辺には、アップしている人がいた。  
コスプレランナーの集団を発見! 着ぐるみを着た人の姿も! メイド服ランナーを発見! コスプレをした参加者が多くいた。スタート準備中。レーンはランナーの長蛇の列で溢れている。



## 幸手桜まつり/幸手駅前



さくらまつり当日の駅前では出店や臨時バスが出ていた。イベント当日でも駅前にある駐輪場は自転車であふれていた。

## 幸手夏祭り/幸手駅前



祭りの目玉行事である花山では山車が集合し迫力満点だった。

## 幸手桜まつり/日光街道



住宅地の中にも小さな菜の花畑を発見! きれい!! まつり当日の住宅地の様子。あまり住民の姿はみられない。

## 幸手夏祭り/日光街道



空地を利用したマルシェには、手作り商品が充実していた。夕方の時間帯には、各町内で山車が曳廻しされていた。祭りの華やかさとは対照的に、質素な印象の本部だった。小雨が降る中でも、中央通りは人と屋台で賑わっていた。

## 調査に参加した大学生による考察

「幸手桜まつり」の会場では、露天商や仮設ステージが設置され、幅広い年代の参加者が自由に楽しむ光景が広がっていた。幸手駅からの臨時シャトルバスが運行されていたが、参加者の大半が車で来たため、会場周辺の駐車場や道路は混雑していた。また、会場周辺でもイベントが開催され、賑わっている様子がうかがえた。

「幸手市さくらマラソン大会」では、幅広い年代のランナーが参加しており、多くのコスプレランナーも見受けられるなど会場に賑わいがみられたが、屋台や仮設ベンチは少なく、参加者以外の来場者はまばらだった。また、周辺道路の交通規制により、歩行者の迂回や交通渋滞は課題であると考えられる。

「幸手夏祭り」では、地域の若い世代の活躍や楽しむ姿が目立っており、通り沿いの空地に屋台街や地域の会所が多数設置され、その間を山車が練り歩く姿は往時の日光街道の賑わいを感じさせた。一方で、観客等が自由に利用可能なベンチ等の設置の不足がうかがえた。これらの調査から、市民はイベントに強い愛着をもち、幅広い年代が参加していることが確認できた。

## 4. フィールドワーク

### 4.8 フィールドワークまとめ

各フィールドワークまとめ

【公共的な施設】

市内には公民館や図書館など、各地域に公共施設があります。市民ワークショップを実施した際に、公共施設について多くの意見が出ました。そこで、施設の現状を把握するため、市街地にある公共施設と田園地帯にある公共施設を調査しました。

■市街地編

「幸手市役所」は、本庁舎の2階部分を支える大きな柱が特徴的で、玄関付近には「しあわせの手」モニュメントや「ハッピーハンズ」モニュメントがあります。玄関部分は光が入りにくく、外から見ると暗い印象を受けました。また、玄関ロビーは明るく広い一方で、来庁者用のトイレ付近は奥まっっており、トイレまでの通路が暗くなっていました。

「幸手市立図書館」は、一般書コーナーや児童書コーナー、視聴覚室など幅広い年代が利用する施設であり、建物内部は1階と2階が大きく吹き抜けていて明るく、開放感がありました。

「中央公民館」についても、吹き抜けがあり、明るくなっていました。また、2階部分は勤労青少年ホームになっており、講習室だけではなく、音楽室や体育室がありました。

「幸手市役所」や「幸手市立図書館」、「中央公民館」はともに竣工から年月が経っていることもあり、外観が古くなっている印象を受けました。

また、市街地には神社仏閣や老舗の旅館など歴史を感じることができる施設が多く存在し、重要な観光資源となっています。

## ■田園地帯編

「ウェルス幸手」は、市の福祉部門があり、乳幼児から高齢者までさまざまな年代の人が訪れる行政施設になっています。1階ロビーは大きな吹き抜けのある構造になっていて開放感がありますが、市のイベント以外でも有効活用できるような工夫が必要です。

「アスカル幸手」は、スポーツや演劇などが楽しめる文化活動施設です。市民だけではなく、市外からも多くの方が利用します。また、トレーニング室もあり、市民の健康づくりに寄与しています。

「郷土資料館」は、市史編さん事業の成果を活用した資料の展示公開や、ボランティアの育成や情報発信など、市民の地域学習や社会教育の拠点施設です。歴史展示室では、幸手の歴史や文化をテーマとした展示がされていました。

また、施設の隣には旧吉田村立吉田中学校の校舎を活用した民具資料展示室があり、昔の生活で使われたたくさんの道具が展示されていました。

「老人福祉センター」は、グラウンドや大広間、浴室を備えており、主に市内在住の高齢者の生きがいや交流の場として機能する施設です。施設内は、中庭からの採光で明るい印象でした。

「幸手市営釣場神扇池」は、水面積が38,551㎡ある本格的な釣り場であり、気軽にへら鮎釣が楽しめるため、平日でも多くの利用者で賑わっていました。

市内には、各地域にさまざまな機能をもつ施設が存在しており、それぞれ施設目的の違いや利用状況に違いがみられました。

## 【防災】

市では市内全域に浸水想定区域が存在しており、台風の時期には道路が冠水することもあります。幸手市洪水ハザードマップを基に、浸水想定が大きい地域の現状把握を目的に調査しました。

「下川崎地区」や「中地区」では、道路面よりも高い場所に建てられている住宅が多くありました。また、水路を挟んだ対岸で地盤面に2 mほどの高低差がみられました。

「戸島地区」や「神扇地区」には調整池があり、洪水が発生した際に下流側の氾濫を防ぐ役割を担っています。また、「花島地区」や「長間地区」には農地が広がり、雨水が田畑に貯まりやすくなっています。

市内全域が浸水想定区域に指定されていることもあり、道路面から高い地盤面に住宅を建築したり、調整池を設けるなど、市全体で対策を講じてきました。しかし、台風時には市街地において道路冠水が発生するなど、課題が残っています。

## 【交通】

市では、広域幹線道路として南北に国道4号及び国道4号バイパスが通っており、また、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）幸手インターチェンジが平成27年に供用開始されたことから、交通利便性が向上しています。

市内における交通利用状況を把握するため、幸手駅や循環バス等の交通インフラについて調査しました。

「道路」について、国道4号や旧日光街道、久喜新道は自動車の交通量が多い様子がみられました。また、住宅地を通る道路については、幅員が狭いものが多く、通学路に指定されている道路もあることから、見通しの悪さなど安全性に課題があることがわかりました。

「鉄道」については、幸手駅を調査したところ、送り迎えのためにロータリーや周辺道路が混雑している様子がみられました。また、平成31年に開通した幸手駅東西自由通路により、安全に駅西側に向かうことができるようになりました。

「自転車」については、駐輪場が満車に近いことが確認でき、幸手駅で降車した人がそのまま自転車に乗って帰宅する様子がみられました。

「市内循環バス」について、現在5つのコースが運行されており、そのうち中央コース、東Bコース、西Bコースの利用状況や沿線環境を調査しました。市街地を運行する中央コースは、他のコースよりも本数が多く、コース沿いには大型ショッピングモールや病院など利便性の高いコースでした。また、東Bコース沿いはのどかな田園風景が広がっており、西Bコースでは幸手桜高校や幸手中学校、西中学校などの教育施設に停留所を設置していることが特徴的でした。

市内において、主要な交通手段は自動車が多くを占めていますが、国道4号を中心にコンパクトなまちになっていることもあり、自転車の利用も多いことがわかりました。市内循環バスについては、5つのコースによって市全体をカバーするように運行されていました。

### 【新興住宅地】

宅地需要の多い場所について把握するため、2011年頃と2024年の住宅地図と比較し、田畑から住宅地になった場所を「新興住宅地」として現地調査を行いました。

「西2丁目周辺」については、昔ながらの住宅と新興住宅が混在していました。似た外観の住宅も多く、生活道路も整備されていることから、分譲住宅などのある程度一体的に開発された地域であることがわかりました。

「北1丁目周辺」については、新興住宅もありましたが、昔ながらの住宅が多くみられました。

「幸手団地周辺」は、以前は田畑が多く存在していましたが、現在は少しずつ住宅が建てられています。

「上高野地区周辺」は、近年大規模な開発が行われたため、新興住宅が多く存在していました。

市街化区域内においては、以前から住宅地が多く存在していたことから、昔ながらの住宅と混在するような形で新興住宅が建てられていました。一方、上高野地区のように大規模な開発によって新興住宅が一斉に建てられた地域もありました。主に国道4号沿いの住宅需要が多いことがわかりました。

### 【大規模空地】

市においては、国道4号を中心にコンパクトなまちになっており、市街化調整区域では約2,600haもの農業振興地域が存在します。市内の官地以外の空地について把握するため、工場跡地や病院跡地など更地になっている場所などを「大規模空地」とし、周辺環境について調査しました。

「北公民館周辺」は田園地帯ですが、一部雑種地において、権現堂堤に近いことから、桜まつりの際などに臨時の駐車場として利用されています。

「幸手駅西口周辺」では、土地区画整理により整備されてきましたが、駅西口前に空地が広がっている現状です。

「南1丁目地内」にある工場跡地は、線路沿いにあり、以前は大規模な工場が存在していました。現在は更地になっています。

「上高野1丁目地内」にある大型店舗跡地は、建物が残っており、広い駐車場を有しています。また、国道4号に接道しており、周辺にはショッピングモールなどの大型店舗があります。

「中4丁目地内」の病院跡地は、不整形な形状をしています。駅からも近く、周辺は住宅地になっています。

「内国府間地内」にある当該敷地は、周辺が宅地開発されていても依然として農地利用されています。

市内における大規模空地は、敷地形状が不整形であるものが多くみられました。また、市街化調整区域の調査地については、昔から農地として利用されていることがわかりました。

## 【イベント】

市では毎年多彩なイベントが開催されており、権現堂堤では桜やひまわり、曼珠沙華、水仙など四季折々の花を楽しむことができます。また、八坂の夏まつりや市民まつり、市民文化祭なども開催されています。

イベント期間中は市外から多くの観光客が訪れることから、市内における人の流れが変わることが考えられます。そのため、「幸手桜まつり」や「幸手市さくらマラソン大会」、「幸手夏祭り（八坂の夏祭り）」について、イベント会場での参加者の動向や会場周辺の様子を調査しました。

「幸手桜まつり」は、毎年約 1,000 本のソメイヨシノが桜のトンネルを作ります。桜まつり期間中は露店も出店しており、子どもから高齢者まで多くの人で賑わっていました。

会場までは、幸手駅から臨時シャトルバスが運行していましたが、会場周辺道路は自動車で非常に混雑していました。また、徒歩やレンタサイクルの利用も推奨されていますが、駅から会場に徒歩で向かう観光客は少ない様子がみられました。

「幸手市さくらマラソン大会」は、第 31 回を迎え、子どもから大人まで市内外の幅広い年代が参加する人気のイベントです。スタート地点やゴール地点である幸手総合公園は多くの参加者で賑わっていましたが、駅前などの市街地においてイベントの影響はみられませんでした。

「幸手夏祭り（八坂の夏まつり）」は、300 年を超える歴史と伝統を誇り、令和 6 年度は 7 月 7 日（日）・11 日（木）・13 日（土）・14 日（日）に開催されました。調査日は、あいにくの小雨でしたが、山車曳廻しや花山、手打ち式が行われ、旧日光街道沿いを中心に多くの人であふれていました。中高生や子育て世帯など、多くの若い世代が楽しむ姿がみられたほか、中央通りには屋台などが多数設営されており、その間を山車が練り歩く姿は往時の日光街道の町並みやその賑わいを感じさせました。

イベント期間中の会場は市内外からの観光客やランナー、市民などで賑わっており、幅広い年代が訪れる場所であることがわかりました。一方で、桜まつりやさくらマラソン大会については、駅からシャトルバスが運行されるからか、駅前や商店街などにイベントの影響はあまりみられませんでした。